

第2章 設定

2

2

この章では、

本装置での基本的な設定方法を説明します。

設定を始める	62
本装置とパソコンの電源を入れる	62
WWWブラウザを起動して本装置のトップページを表示させる	62
時計を設定する	65
設定方法を選ぶ	67
「かんたん設定」で設定する場合	67
「詳細設定」で設定する場合	68
「かんたん設定」で設定する（インターネットへISDN接続のとき）	69
「かんたん設定」で設定する（インターネットへフレッツ・ISDN接続のとき）	75
「かんたん設定」で設定する（インターネットへ専用線接続のとき）	80
「かんたん設定」で設定する（オフィスへISDN接続のとき）	84
「かんたん設定」で設定する（オフィスへ専用線接続のとき）	89
「かんたん設定」で設定する（アナログ設定）	93
電話機を使って設定する	94
時計を設定する	94
IPアドレスを設定する	95
アナログ機能を設定する	96
着信転送先の設定を行う	98
TELメールの設定を行う	99
メールチェックを実行する	99
メール着信を消去する	100
留守状態の設定を行う	100
留守モードの設定を行う	101

設定を始める

■ 本装置とパソコンの電源を入れる

1. 本装置の電源を入れます。
2. 本装置が起動したことを確認します。



電源が入ると、本装置は自動的に装置の状態を診断します。このとき、CHECK/B1/B2/LAN ランプが点滅します。次にHUB以外のランプが同時に緑色で約2秒間点灯します。装置に異常がない場合は、CHECKランプが消灯して、起動が完了します。

3. パソコンの電源を入れます。



Windows[®] 95/98/Me には、IP アドレスやアダプタアドレス (MAC アドレス) など現在の IP 設定情報を確認できるコマンドがあります。以下のように操作します。

1. [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択する。
2. 「winipcfg.exe」を指定する。

Windows NT[®]、Windows[®] 2000 の場合には「ipconfig.exe」で確認できます。

⚠ 注意

本装置は、10BASE-T ポートに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤル発信を行い回線を接続します。そのため、お客様がご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用条件により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されてしまう場合があります。

すでに設定されている内容から、本装置が関係するネットワークの一部、またはすべてが変更になった場合は、本装置をいったんご購入時の状態に戻してから、設定し直してください。以前の設定が残っていると、お客様の意図しないダイヤル発信が行われたり、回線が接続できなかったりすることがあります。

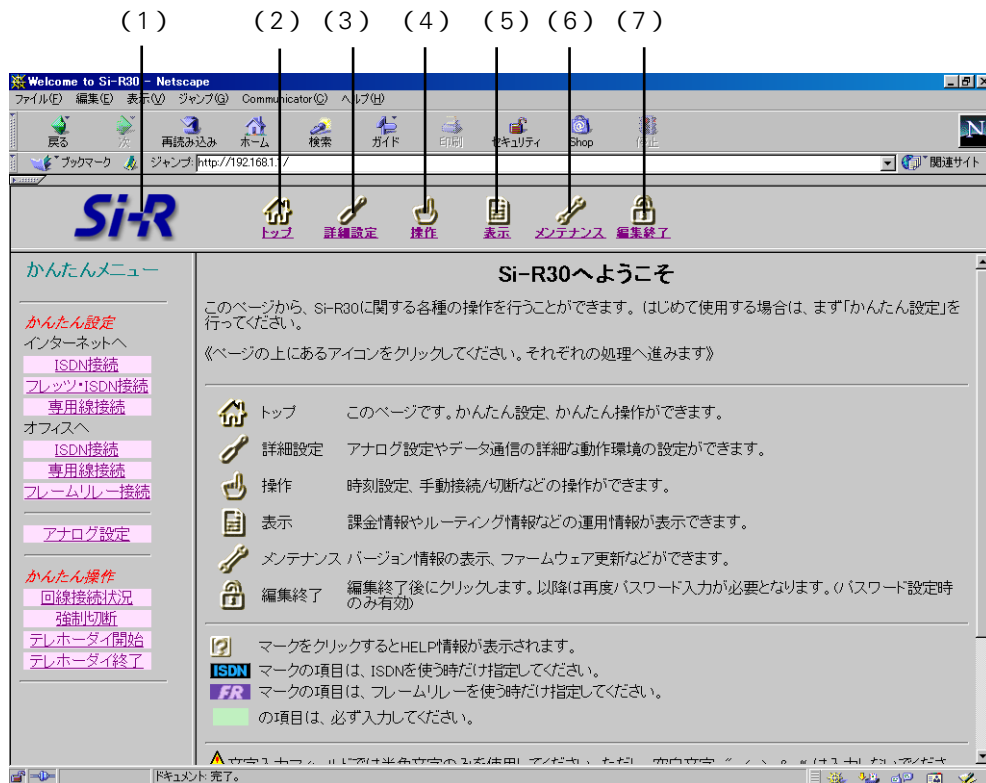
■ WWW ブラウザを起動して本装置のトップページを表示させる

☞ 参照 WWW ブラウザの設定 → 「WWW ブラウザを用意する」(P.52)

1. WWW ブラウザを起動します。

2. 本装置のURL「http://192.168.1.1/」を指定します。

本装置のトップページが表示されます。



画面上部のフレームに表示されるアイコンをクリックすると、ブラウザの表示が変わります。

(1) Si-R ロゴ

クリックすると、かんたんメニューが表示されます。



(2) [トップ] アイコン

クリックすると、かんたんメニューが表示されます。かんたんメニューには「かんたん設定」と「かんたん操作」があります。

「かんたん設定」では、インターネットに接続するための基本設定が行えます。

「かんたん操作」では、テレホーダイの開始 / 停止などが行えます。



(3) [詳細設定] アイコン

クリックすると、詳細設定メニューが表示されます。

詳細設定メニューには「ルータ設定」と「アナログ設定」があります。

「詳細設定」では、「かんたん設定」より詳細な情報を設定できます。

「アナログ設定」では、本装置に接続したアナログ機器の設定が行えます。



(4) [操作] アイコン

クリックすると、操作メニューが表示されます。



(5) [表示] アイコン

クリックすると、表示メニューが表示されます。



(6) [メンテナンス] アイ
コン

クリックすると、メンテナンスメニューが表示されま
す。



(7) [編集終了] アイコン

クリックすると、すぐに設定操作を終了できます（ロ
グインパスワードが設定されている場合だけ有効）。

☛ 参照 「操作メニューを使う」(P.423) 「表示メニューを使う」(P.429)
「メンテナンスメニューを使う」(P.439)

時計を設定する

本装置の設定を行う前に、必ず時計の設定を行ってください。時計を設定する方法は、以下の2種類があります。

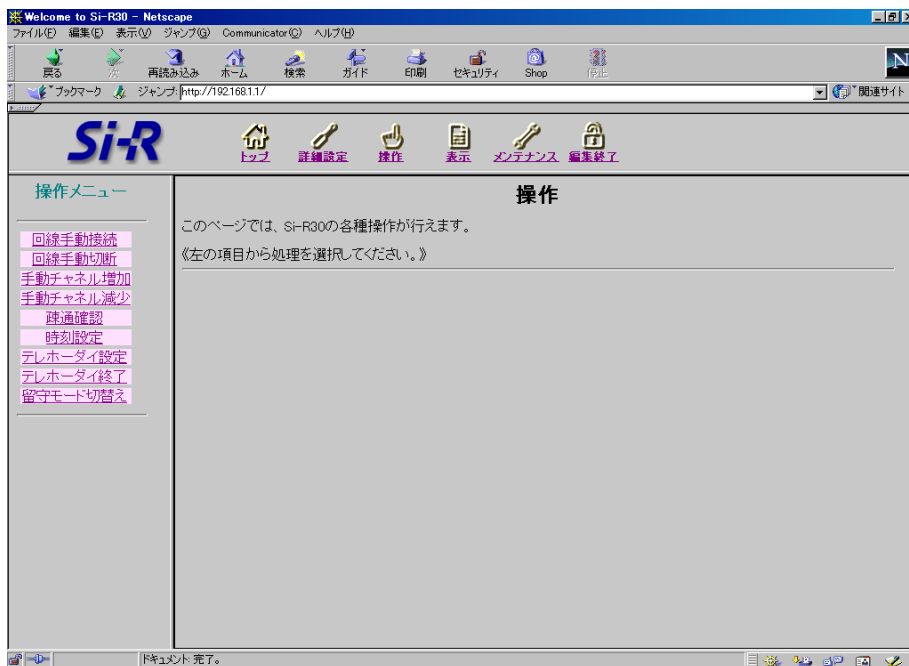
- WWWブラウザで設定する
- 電話機を使って設定する（P.94）

ここでは、WWWブラウザで設定する方法を説明します。操作メニューを使って、本装置の内部時計の時刻を設定します。

こんな事に気をつけて

電源を切ると時刻情報が失われます。

1. 本装置のトップページで、画面上部の[操作]アイコンをクリックします。
操作メニューが表示されます。



2. 操作メニューで「時刻設定」をクリックします。

「時刻情報設定」ページが表示されます。

時刻情報設定

 電源を切断しますと時刻は初期化されます。

[時刻の設定]

パソコンから時刻を取得	パソコンの現在時刻 2001 年 1 月 10 日 16 時 54 分 33 秒	設定
タイムサーバから時刻を取得	サーバアドレス 設定されていません。	-
任意の時刻を設定	1970 年 01 月 01 日 14 時 52 分 17 秒	設定

3. 時計を設定する方法を以下の3つの中から選択します。

- パソコンから時刻を取得 → WWW ブラウザを利用しているパソコンの時刻を取得する
- タイムサーバから時刻を取得 → ネットワーク上の TIME サーバまたは NTP サーバから時刻を取得する
- 任意の時刻を設定 → 現在の日時を入力する

4. 指定する時刻の設定方法の [設定] ボタンをクリックします。

「時刻を。。。に設定しました。」というメッセージが表示されます。

設定方法を選ぶ

設定方法には「かんたん設定」と「詳細設定」の2つがあります。

通常のご利用では、「かんたん設定」で十分です。「かんたん設定」で設定したあとで、必要な設定に関しては「詳細設定」で設定を追加する方法をお勧めします。



IPアドレスや時計の設定などは、アナログ機器でも行えます。

■ 「かんたん設定」で設定する場合

「かんたん設定」では、1つの画面で最小限の情報を設定するだけで本装置を使用できるようになります。『ルータ設定』と『アナログ設定』の2つがあります。

『ルータ設定』は、データ通信の設定が行えます。以下の2つの接続形態があります。

(1) インターネット接続

プロバイダとの接続方法により、以下を選択します。

- 端末型ダイヤルアップ接続の場合 → インターネットへ「ISDN接続」
→ インターネットへ「フレッツ・ISDN接続」
- 専用線接続の場合 → インターネットへ「専用線接続」

(2) 事業所LAN どうしを接続

接続方法により、以下を選択します。

- ISDN接続の場合 → オフィスへ「ISDN接続」
- 専用線接続の場合 → オフィスへ「専用線接続」

『アナログ設定』は、基本的なアナログ機器の設定が行えます。

「かんたん設定」で設定する場合は、設定終了時に[設定終了]ボタンをクリックする必要があります。この場合、本装置が再起動され、通話中やデータ通信中の場合は通話およびデータ通信は切断されます。

■ 「詳細設定」で設定する場合

詳細設定は本装置のすべての定義が設定できます。

「詳細設定」で設定する場合は、「設定ページリファレンス」(P.137)を参照してください。

こんな事に気をつけて

- 「かんたん設定」を行った後に「詳細設定」を行うと「かんたん設定」で設定した内容が変更されます。
 - 「詳細設定」を行った後に「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容が変更されます。ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報は有効です。
 - 詳細設定で設定した内容はかんたん設定で確認できません。
-

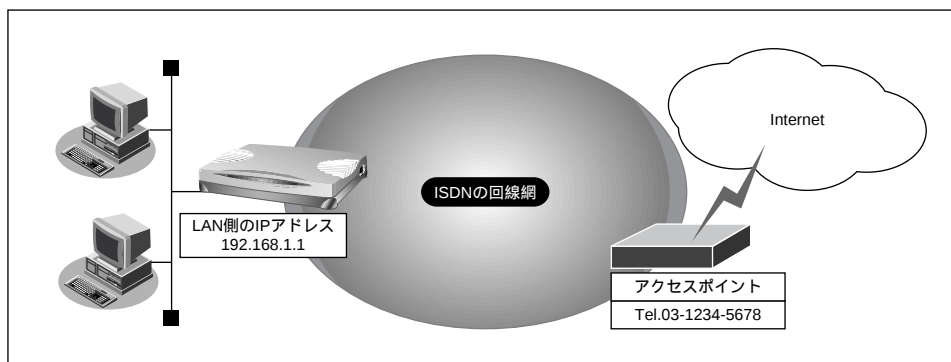
「かんたん設定」で設定する (インターネットへISDN接続のとき)

インターネットへISDN接続するときは、「かんたん設定」で[必須設定]の情報を設定するだけで接続できます。また、[オプション設定]の情報を設定すると、以下のことができます。

- 本装置のIPアドレスとLAN側のネットマスクの変更
- DNSサーバの設定
- 同一プロバイダのアクセスポイントを複数指定(マルチダイヤル)
- ISDN回線を自動切断するまでの時間の変更(無通信監視タイマ)
- 回線の切断タイミングの調整(課金単位時間)
- 接続ネットワーク名と接続先名の設定
- データの転送速度を早くする(MP-Multilink PPP)
- テレホーダイを手動で設定
- 無駄な通信料金の抑止(かんたんフィルタ)

☞ 参照 「用語集」(P.601)

ここでは、以下の条件を例に説明します。



● 設定条件

- 端末型ダイヤルアップ接続を行う
- 新規にLANを構築する
- 接続先の電話番号 : 03-1234-5678
- ユーザ認証ID : userid
- ユーザ認証パスワード : userpass

こんな事に気をつけて

文字入力フィールドでは半角文字（0～9、A～Z、a～z、および記号）だけを使用してください。ただし、空白文字、「」<、「>、「&」、「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

詳細については、「付録 文字入力フィールドに入力できる文字一覧（P600）」を参照してください。

1. かんたん設定でインターネットへの「ISDN 接続」をクリックします。

「かんたん設定（インターネットへISDN 接続）」ページが表示されます。



かんたんメニューは、本装置のトップページで画面上部の [トップ] アイコンをクリックして表示させることができます。

2. [必須設定] で以下の項目を指定します。

- 接続先の電話番号 → 03-1234-5678（プロバイダから提示された内容）
- ユーザ認証ID → userid（プロバイダから提示された内容）
- ユーザ認証パスワード → userpass（プロバイダから提示された内容）

[必須設定] ISDN	
接続先の電話番号	03-1234-5678
ユーザ認証ID	userid
ユーザ認証パスワード	*****

3. 必要に応じて、[オプション設定] で以下の項目を指定します。

- Si-R30のIPアドレス → 192.168.1.1
- ネットマスク → 24
- DNS サーバ → DNS サーバのIPアドレスが公開されていない場合、またはDNSサーバアドレスの自動取得機能を利用する場合は「自動取得」を選択します。
ただし、「自動取得」はプロバイダがDNS自動取得に対応している場合だけ使用できます。
- 接続先の電話番号2 → プロバイダの他のアクセスポイントの電話番号2
- 接続先の電話番号3 → プロバイダの他のアクセスポイントの電話番号3



「接続先の電話番号2」、「接続先の電話番号3」は、マルチダイヤル機能を利用する場合に設定します。

- 無通信監視タイマ → 初期設定値は60秒。必要に応じて変更します（0～3600秒）。



0を指定した場合、回線の自動切断は行いません。

- 課金単位時間 → 初期設定値は0秒。必要に応じて変更します（0～3600秒）。



接続先までの課金単位に合わせて指定します。なお、0を設定した場合、課金単位の調整は行いません。例えば、接続先までの電話料金が3分10円の場合、180秒をお勧めします。

- 接続ネットワーク名 → internet（接続するネットワークの名称を半角英数字8文字以内で入力します。接続先を区別するための任意の名称を指定します。）
- 接続先名 → ISP-1（プロバイダの名称を半角英数字8文字以内で入力します。接続先を区別するための任意の名称を指定します。）
- MP → 初期設定は「使用しない」。プロバイダがMPをサポートしていて、MPを使用する場合は「使用する」を選択します。
 使用する（手動）：操作メニューで「手動チャネル増加」を選択した場合にMPを使用
 使用する（自動）：通信量が多くなった場合に自動的にMPを使用

こんな事に気をつけて

接続先のプロバイダがMPに対応していない場合は、MPでは通信できません。

- テレホーダイ → 初期設定は「使用しない」。テレホーダイを契約していて、テレホーダイを使用する場合は、「使用する」を選択します。
 使用する（手動）：操作メニューで「テレホーダイの設定」「テレホーダイ終了」で設定した時間帯にテレホーダイを使用
 使用する（自動）：毎日夜11:00～翌朝8:00の時間帯に自動的にテレホーダイを使用



使用する（自動）を指定した場合、必ず装置の時刻を正しく設定してください。

- かんたんフィルタ → 初期設定は「使用する」。



Windows[®]環境でネットワークを構成している場合は、無駄な課金が発生する場合があるため、「かんたんフィルタ」で「使用する」を選択することをお勧めします。

[オプション設定] ISDN	
Si-R30のIPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
DNSサーバ	☒ 自動取得
接続先の電話番号2	
接続先の電話番号3	
無通信監視タイマ	60 秒
課金単位時間	0 秒
接続ネットワーク名	internet
接続先名	ISP-1
MP	☐ 使用する(手動) ☐ 使用する(自動) ☒ 使用しない
テレホーダイ	☐ 使用する(手動) ☐ 使用する(自動) ☒ 使用しない
かんたんフィルタ	☒ 使用する ☐ 使用しない

4. 設定が終了したら、[設定終了] ボタンをクリックします。

再起動後に、通信できる状態になります。

こんな事に気をつけて

- 本装置のIPアドレスを変更した場合、再起動後に本装置にアクセスするためには、パソコンのIPアドレスの変更（再起動）およびURLを変更する必要があります。
- 本装置を既存のLANに接続する場合には、LAN上の他のホストとIPアドレスが重複しないように適切なIPアドレスを設定してください。本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

⚠注意

本装置は、10BASE-Tポートに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤル発信を行い回線を接続します。そのため、お客様がご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用条件により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されてしまう場合があります。

インターネットに接続できることを確認する

設定が終わったら、インターネットに接続できるかどうかを確認します。

1. WWWブラウザでURL「http://www.fujitsu.com」を入力します。

インターネットに接続できた場合は、富士通のページが表示されます。



ヒント

省略値について

かんたん設定時に適用される主な省略値を示します。

○：変更可能、×：変更不可

項 目	適用される省略値	オプション設定での設定変更
自動ダイヤル	使用する	×
すべてのデータ通信の着信	許可しない	×
無通信監視タイマ	60 秒	○
課金単位時間	なし	○
接続ネットワーク名	internet	○
接続先名	ISP-1	○
接続先のサブアドレス	なし	×
DHCP サーバ機能 ・割り当て先頭IPアドレス ・割り当てアドレス数 ・DNS サーバのIP アドレス	使用する 本装置のIP アドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+2 32 「自動取得（ 1 ）」指定時は、本装置のIPアドレス	×
NAT 機能	マルチ NAT を使用 アドレス割り当てタイマ:5分	×
MP 機能（ 2 ）	使用しない	○
テレホーダイ	使用しない	○
かんたんフィルタ（ 3 ）	使用する	○
ダイナミックルーティング ・RIP 送信（LAN 側） ・RIP 受信（LAN 側） ・RIP 送信（WAN 側） ・RIP 受信（WAN 側）	送信しない 受信しない 送信しない 受信しない	×
スタティックルーティング ・LAN 側 ・WAN 側	なし デフォルトルートを設定する（メトリック値:1）	×
ヘッダ圧縮	VJ-Compression：使用する	×
課金制御	上限 3,000 円	×
スケジュール	毎週金曜日 00:00 に課金情報クリア	×

- 1) DNSサーバのIPアドレスを「自動取得」にした場合には、ProxyDNS情報が以下のように設定されます。

[順引き情報一覧]

優先順位	ドメイン名	動 作	ネットワーク名
	タイプ		
	送信元IPアドレス / マスク		
1	*	接続先のDNSサーバへ問い合わせる	internet
	すべて		
	any		

[逆引き情報一覧]

優先順位	ネットワークアドレス	動 作	ネットワーク名
1	any	接続先のDNSサーバへ問い合わせる	internet

- 2) MP機能を「使用する(自動)」にした場合には、以下のように設定されます。

- アナログ使用時縮退 : する
- トラフィックによる増減 : する
- 回線増加条件 : 回線使用率 (90%) \ 猶予時間 (10秒)
- 回線削除条件 : 回線使用率 (40%) \ 猶予時間 (60秒)

- 3) かんたんフィルタを「使用する」にした場合には、以下のように設定されます。

- Windows[®] 95/98/Me/2000、Windows NT[®] でMicrosoft Networkを使用する場合に、NetBIOS over TCPが使用するTCPおよびUDPのサービスポート137から139を遮断するフィルタを設定します。
- ping (ICMP echo) や syslog、time、SNTPで使用するプロトコルを抑止するフィルタを設定します。なお、回線が接続状態の場合はそれぞれのパケットを通過させます。
- Windows[®] 2000から本装置を経由してインターネットへ接続する場合、Windows[®] 2000が送信する予期せぬDNSパケットにより自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、ProxyDNS情報に問い合わせタイプがSOA (6) \ SRV (33) のDNSパケットを破棄するフィルタ、およびホストデータベース情報にIPアドレス「127.0.0.1」でホスト名「localhost」の情報を設定します。

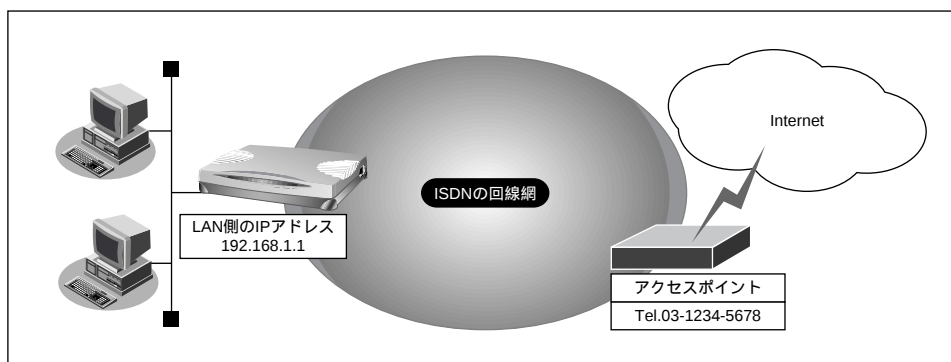
「かんたん設定」で設定する (インターネットヘフレッツ・ISDN接続のとき)

インターネットヘフレッツ・ISDN接続するときは、「かんたん設定」で[必須設定]の情報を設定するだけで接続できます。また、[オプション設定]の情報を設定すると、以下のことができます。

- 本装置のIPアドレスとLAN側のネットマスクの変更
- DNSサーバの設定
- ISDN回線を自動切断するまでの時間を変更(無通信監視タイマ)
- 接続ネットワーク名と接続先名の設定
- 無駄な通信料金の抑止(かんたんフィルタ)

☞ 参照 「用語集」(P.601)

ここでは、以下の条件を例に説明します。



● 設定条件

- 端末型ダイヤルアップ接続を行う
- 新規にLANを構築する
- 接続先の電話番号 : 03-1234-5678
- ユーザ認証ID : userid@nifty.com
- ユーザ認証パスワード : userpass

こんな事に気をつけて

- フレッツ・ISDNとは、NTTが提供するサービスです。定額料金でインターネットが使えます。フレッツ・ISDNを使用する場合は、NTTとの契約とフレッツ・ISDNに対応しているプロバイダとの契約が必要です。フレッツ・ISDNでは、プロバイダのアクセスポイントに接続するのではなく、お申し込み後にNTTから通知された電話番号に接続します。またユーザ認証IDは「xxx@xxx.ne.jp」や「xxx@xxx.com」などの形式を使用しています。詳しくは、契約しているプロバイダに確認してください。
- 文字入力フィールドでは半角文字（0～9、A～Z、a～z、および記号）だけを使用してください。ただし、空白文字、「」_「<_「>_「&_「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。詳細については、「付録 文字入力フィールドに入力できる文字一覧（P.600）」を参照してください。

1. **かんたん設定**でインターネットへの「**フレッツ・ISDN 接続**」をクリックします。
「かんたん設定（インターネットへフレッツ・ISDN 接続）」ページが表示されます。



かんたんメニューは、本装置のトップページで画面上部の[トップ]アイコンをクリックして表示させることができます。

2. [必須設定]で以下の項目を指定します。

- 接続先の電話番号 → 03-1234-5678（NTTから通知された電話番号）
- ユーザ認証ID → userid@nifty.com（プロバイダから提示された内容）
- ユーザ認証パスワード → userpass（プロバイダから提示された内容）

[必須設定] ISDN	
接続先の電話番号	03-1234-5678
ユーザ認証ID	userid@nifty.com
ユーザ認証パスワード	*****

3. 必要に応じて、[オプション設定]で以下の項目を指定します。

- Si-R30のIPアドレス → 192.168.1.1
- ネットマスク → 24
- DNS サーバ → DNSサーバのIPアドレスが公開されていない場合、またはDNSサーバアドレスの自動取得機能を利用する場合は「自動取得」を選択します。
ただし、「自動取得」はプロバイダがDNS自動取得に対応している場合だけ使用できます。
- 無通信監視タイマ → 初期設定値は「使用する」、時間は300秒。必要に応じて変更します（0～3600秒）。

こんな事に気をつけて

0 を指定した場合、回線の自動切断は行いませんのでご注意ください。

- 接続ネットワーク名 → internet (接続するネットワークの名称を半角英数字8文字以内で入力します。接続先を区別するための任意の名称を指定します。)
- 接続先名 → ISP-1 (プロバイダの名称を半角英数字8文字以内で入力します。接続先を区別するための任意の名称を指定します。)
- かんたんフィルタ → 初期設定は「使用する」。



Windows[®]環境でネットワークを構成している場合は、無駄な通信が発生する場合がありますため、「かんたんフィルタ」で「使用する」を選択することをお勧めします。

4. 設定が終了したら、[設定終了] ボタンをクリックします。

再起動後に、通信できる状態になります。

こんな事に気をつけて

- 本装置のIPアドレスを変更した場合、再起動後に本装置にアクセスするためには、パソコンのIPアドレスの変更（再起動）およびURLを変更する必要があります。
- 本装置を既存のLANに接続する場合には、LAN上の他のホストとIPアドレスが重複しないように適切なIPアドレスを設定してください。本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

⚠注意

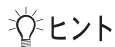
本装置は、10BASE-Tポートに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤル発信を行い回線を接続します。そのため、お客様がご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用条件により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されてしまう場合があります。

インターネットに接続できることを確認する

設定が終わったら、インターネットに接続できるかどうかを確認します。

1. WWW ブラウザで URL 「http://www.fujitsu.com」 を入力します。

インターネットに接続できた場合は、富士通のページが表示されます。



ヒント

省略値について

かんたん設定時に適用される主な省略値を示します。

○：変更可能、×：変更不可

項 目	適用される省略値	オプション設定での設定変更
自動ダイヤル	使用する	×
すべてのデータ通信の着信	許可しない	×
無通信監視タイマ	300 秒	○
接続ネットワーク名	internet	○
接続先名	ISP-1	○
接続先のサブアドレス	なし	×
DHCP サーバ機能	使用する	×
・割り当て先頭IPアドレス	本装置のIPアドレス、ネットマスクから求めたネットワークアドレス+2	
・割り当てアドレス数	32	
・DNS サーバのIPアドレス	「自動取得（ 1）」指定時は、本装置のIPアドレス	
NAT 機能	マルチ NAT を使用 アドレス割り当てタイマ:5分	×
かんたんフィルタ（ 2 ）	使用する	○
ダイナミックルーティング		×
・RIP 送信（LAN側）	送信しない	
・RIP 受信（LAN側）	受信しない	
・RIP 送信（WAN側）	送信しない	
・RIP 受信（WAN側）	受信しない	
スタティックルーティング		×
・LAN側	なし	
・WAN側	デフォルトルートを設定する（メトリック値:1）	
ヘッダ圧縮	VJ-Compression：使用する	×
課金制御	なし	×
スケジュール	毎週金曜日 00:00 に課金情報クリア	×

- 1) DNSサーバのIPアドレスを「自動取得」にした場合には、ProxyDNS情報が以下のように設定されます。

[順引き情報一覧]

優先順位	ドメイン名	動 作	ネットワーク名
	タイプ		
	送信元IPアドレス / マスク		
1	*	接続先のDNSサーバへ問い合わせる	internet
	すべて		
	any		

[逆引き情報一覧]

優先順位	ネットワークアドレス	動 作	ネットワーク名
1	any	接続先のDNSサーバへ問い合わせる	internet

- 2) かんたんフィルタを「使用する」にした場合には、以下のように設定されます。

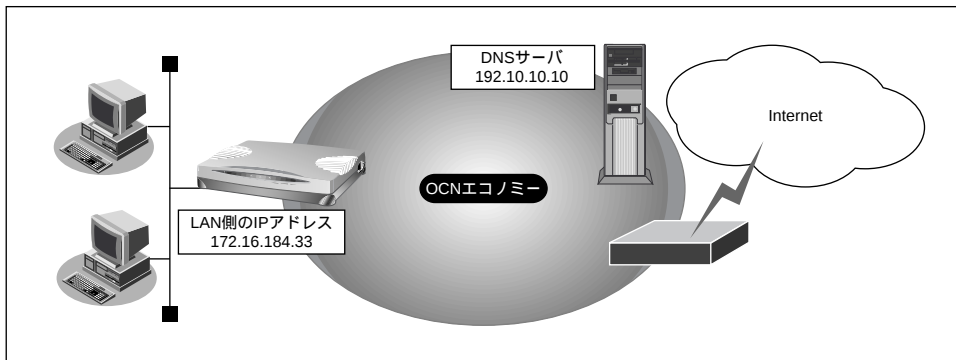
- Windows® 95/98/Me/2000、Windows NT® で Microsoft Network を使用する場合に、NetBIOS over TCP が使用する TCP および UDP のサービスポート 137 から 139 を遮断するフィルタを設定します。
- ping (ICMP echo) や syslog、time、SNTP で使用するプロトコルを抑止するフィルタを設定します。なお、回線が接続状態の場合はそれぞれのパケットを通過させます。
- Windows® 2000 から本装置を経由してインターネットへ接続する場合、Windows® 2000 が送信する予期せぬ DNS パケットにより自動発信してしまう場合があります。この問題を回避するために、ProxyDNS 情報に問い合わせタイプが SOA (6)、SRV (33) の DNS パケットを破棄するフィルタ、およびホストデータベース情報に IP アドレス「127.0.0.1」でホスト名「localhost」の情報を設定します。

「かんたん設定」で設定する (インターネットへ専用線接続のとき)

インターネットへ専用線接続するときは、「かんたん設定」で[必須設定]の情報を設定するだけで接続できます。また、[オプション設定]の情報を設定すると、以下のことができます。

- 接続ネットワーク名称の設定
- 契約時に指示されたドメイン名の設定
- アドレス変換の設定

ここでは、以下の設定条件でOCNエコノミーを利用する場合を例に説明します。



● 設定条件

- OCNエコノミー専用線(128Kbps)を使用する
- 新規にLANを構築する
- OCN側のDNSサーバを使用 : 192.10.10.10
- OCNより提示されたドメイン名: domain.ocn.ne.jp
- 接続するパソコンの台数はOCNより割り当てられたIPアドレスよりも少ない
- 割当てIPアドレス

ネットワークアドレス : 172.16.184.32/29

ホストアドレス : 172.16.184.33 ~ 172.16.184.38

ブロードキャストアドレス : 172.16.184.39

こんな事に気をつけて

文字入力フィールドでは半角文字(0~9、A~Z、a~z、および記号)だけを使用してください。ただし、空白文字、「"」<」>」&」%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

詳細については、「付録 文字入力フィールドに入力できる文字一覧(P.600)」を参照してください。

1. かんたん設定でインターネットへの「専用線接続」をクリックします。

「かんたん設定（インターネットへ専用線接続）」ページが表示されます。

2. [必須設定] で以下の項目を指定します。

こんな事に気をつけて

本装置のIPアドレスにネットワークアドレス、またはブロードキャストアドレスを指定しないでください。

- Si-R30のIPアドレス → 172.16.184.33（割り当てられたホストアドレスの先頭）
- ネットマスク → 29（ネットマスクのビット数）
- 使用する回線速度 → 128Kbps
- DNSサーバ → 192.10.10.10（OCNから提示されたIPアドレス）

3. 必要に応じて、[オプション設定] で以下の項目を指定します。

- 接続ネットワーク名 → internet（接続するネットワークの名称を半角英数字8文字以内で入力します。接続先を区別するため任意の名称を指定します。）
- ドメイン名 → domain.ocn.ne.jp（OCNより提示されたドメイン名）
- アドレス変換 → 初期値は「使用しない」。
- アドレス個数 → アドレス変換で「マルチNAT」を指定した場合は、グローバルアドレスの個数を指定します。



この例のように割り当てられたIPアドレスよりも接続するパソコンの台数が同数または少ない場合、「使用しない」を選択します。割り当てられたIPアドレスより接続するパソコンの台数が多い場合は、「マルチNAT」を選択すると、すべてのパソコンがインターネットを利用できます。その際には、「グローバルアドレス」と「アドレス個数」を設定します。

4. 設定が終了したら、[設定終了] ボタンをクリックします。

再起動後に、通信できる状態になります。

こんな事に気をつけて

- 本装置のIPアドレスを変更した場合、再起動後に本装置にアクセスするためには、パソコンのIPアドレスの変更（再起動）およびURLを変更する必要があります。
- 本装置を既存のLANに接続する場合には、LAN上の他のホストとIPアドレスが重複しないように適切なIPアドレスを設定してください。本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」が設定されています。



OCNエコノミーなら「マルチ NAT」機能が便利

OCNエコノミーの契約時に割り当てられたIPアドレスの個数より、パソコンの台数が多い場合は、本装置の「マルチ NAT 機能」が便利です。「マルチ NAT 機能」によって、実際に割り当てられたIPアドレスの数を上回る台数のLAN上のパソコンでインターネットを利用できるようになります。

マルチ NAT

本装置では、インターネットを利用する際に、プロバイダより割り当てられたIPアドレス（グローバルアドレス）を、ネットワーク上で設定していたIPアドレス（プライベートアドレス）と対応付けることによって、従来のネットワークの設定を変更することなくインターネット接続を可能にするアドレス変換（NAT）機能をサポートしています。

NAT 機能は、プライベートアドレスとグローバルアドレスを1対1に対応付けるもので、NAT 機能を介して通信できるパソコンの台数は割り当てられるIPアドレスと同じになります。このため、プロバイダと端末型ダイヤルアップ契約の場合、一つしかIPアドレスが割り当てられないので、同時接続台数が1台に制限されます。

マルチ NAT は、この問題を解決するために1対1の対応付けから、多対1の対応付けを実現した機能です。IPアドレスとポート番号を組み合わせたIP情報の割り当てを行うことによって、プライベートアドレスとグローバルアドレスとを多対1に対応付け、同時に複数のパソコンからの利用が可能となります。

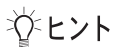
☛ 参照 「マルチ NAT 機能（アドレス変換機能）を使う」(P.356)

インターネットに接続できることを確認する

設定が終わったら、インターネットに接続できるかどうかを確認します。

1. WWW ブラウザで URL 「http://www.fujitsu.com」 を入力します。

インターネットに接続できた場合は、富士通のページが表示されます。



ヒント 省略値について

かんたん設定時に適用される主な省略値を示します。

○：変更可能、×：変更不可

項 目	適用される省略値	オプション設定 での設定変更
ブロードキャストアドレス	ネットワークドレス + オール 1	×
接続ネットワーク名	internet	○
DHCP サーバ機能 ・ 割り当て先頭 IP アドレス ・ 割り当てアドレス数	使用する 本装置の IP アドレス、ネットマスクから求めた ネットワークアドレス + 2 32	×
NAT 機能	使用しない (1)	○
かんたんフィルタ	使用しない	×
ダイナミックルーティング ・ RIP 送信 (LAN 側) ・ RIP 受信 (LAN 側) ・ RIP 送信 (WAN 側) ・ RIP 受信 (WAN 側)	送信しない 受信しない 送信しない 受信しない	×
スタティックルーティング ・ LAN 側 ・ WAN 側	なし デフォルトルートを設定する (メトリック値 : 1)	×
ヘッダ圧縮	VJ-Compression : 使用する	×

1) マルチ NAT 使用時のアドレス割り当てタイマは 5 分を設定します。

「かんたん設定」で設定する (オフィスへISDN接続のとき)

事業所 LAN どうしを ISDN で接続するときは、「かんたん設定」で [必須設定] の情報を設定するだけで接続できます。また、[オプション設定] の情報を設定すると、以下のことができます。

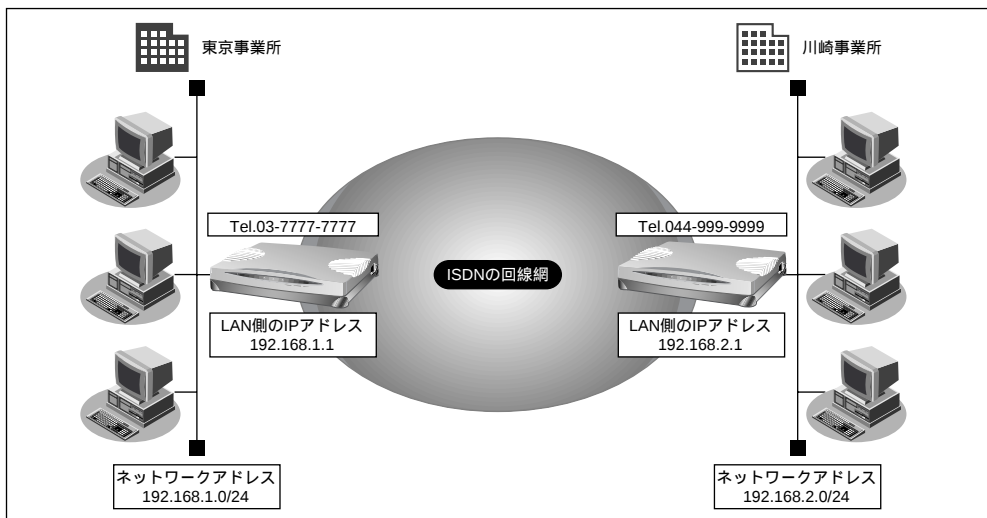
- DHCP サーバ機能の設定
- ISDN 回線を自動切断するまでの時間の変更 (無通信監視タイマ)
- 回線の切断タイミングの調整 (課金単位時間)
- 接続ネットワーク名と接続先名の設定
- データの転送速度を早くする (MP-Multilink PPP)
- 送受信するデータの圧縮 (VJ-Compression)

☞ 参照 「用語集」(P.601)

ここでは、ISDN 回線を介して2つの事業所 (東京、川崎) のネットワークを接続する場合を例に説明します。



「詳細設定」で設定する場合や基幹ネットワーク (大規模ネットワーク) に接続する場合は、「事業所 LAN どうしを ISDN で接続する」(P.104) を参照してください。



● 設定条件

- DHCP サーバ機能は使用しない

[東京事業所]

- 電話番号 : 03-7777-7777
- ユーザ認証 ID とユーザ認証パスワード
 - 発信 : tokyo、tokyopass
 - 着信 : kawasaki、kawapass
- LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.1.0/24 (本装置の IP アドレス : 192.168.1.1)

[川崎事業所]

- 電話番号 : 044-999-9999
- ユーザ認証 ID とユーザ認証パスワード
 - 発信 : kawasaki、kawapass
 - 着信 : tokyo、tokyopass
- LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.2.0/24 (本装置の IP アドレス : 192.168.2.1)

こんな事に気をつけて

文字入力フィールドでは半角文字 (0 ~ 9、A ~ Z、a ~ z、および記号) だけを使用してください。ただし、空白文字、「」_左「」_右「<」_左「>」_右「&」_左「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。
詳細については、「付録 文字入力フィールドに入力できる文字一覧 (P.600)」を参照してください。

東京事業所の本装置を設定する

1. かんたん設定でオフィスへの「ISDN 接続」をクリックします。

「かんたん設定 (オフィスへ ISDN 接続)」ページが表示されます。

2. [必須設定] で以下の項目を指定します。

- 接続先の電話番号 → 044-999-9999
- ユーザ認証 ID (発信) → tokyo
- ユーザ認証パスワード (発信) → tokyopass
- ユーザ認証 ID (着信) → kawasaki
- ユーザ認証パスワード (着信) → kawapass
- Si-R30 の IP アドレス → 192.168.1.1 (既存の LAN につなぐときは適宜変更)
- Si-R30 のネットマスク → 24 (既存の LAN につなぐときは適宜変更)
- 相手ルータの IP アドレス → 192.168.2.1 (接続先となる本装置のネットワークアドレス)
- 相手ルータのネットマスク → 24 (接続先となる本装置のネットマスク)

[必須設定] ISDN	
接続先の電話番号	044-999-9999
ユーザ認証ID(発信)	tokyo
ユーザ認証パスワード(発信)	*****
ユーザ認証ID(着信)	kawasaki
ユーザ認証パスワード(着信)	*****
Si-R30のIPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
Si-R30のネットマスク	24 (255.255.255.0)
相手ルータのIPアドレス	192 . 168 . 2 . 1
相手ルータのネットマスク	24 (255.255.255.0)

3. [オプション設定] で以下の項目を指定します。

- DHCPサーバ機能 → 使用しない
- 接続ネットワーク名 → kaisya (接続するネットワークの名称を半角英数字8文字以内で入力します。接続先を区別するため任意の名称を指定します。)
- 接続先名 → kawasaki (接続先の名称を半角英数字8文字以内で入力します。接続先を区別するための任意の名称を指定します。)

[オプション設定] ISDN	
DHCPサーバ機能	☒ 使用しない ☐ 使用する DNSサーバ広報 . . .
無通信監視タイム	60 秒
課金単位時間	: 0 秒
接続ネットワーク名	kaisya
接続先名	kawasaki
MP	☐ 使用する(手動) ☐ 使用する(自動) ☒ 使用しない
データ圧縮	☒ VJ

4. 設定が終了したら、[設定終了] ボタンをクリックします。

再起動後に、通信できる状態になります。

こんな事に気をつけて

- 本装置のIPアドレスを変更した場合、再起動後に本装置にアクセスするためには、パソコンのIPアドレスの変更(再起動)およびURLを変更する必要があります。
- 本装置を既存のLANに接続する場合には、LAN上の他のホストとIPアドレスが重複しないように適切なIPアドレスを設定してください。本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

川崎事業所の本装置を設定する

「東京事業所の本装置を設定する」を参考に、川崎事業所の本装置を設定します。その際、特に指定のないものは、東京事業所と同じ設定にします。

[必須設定]

- 接続先の電話番号 → 03-7777-7777
- ユーザ認証ID（発信） → kawasaki
- ユーザ認証パスワード（発信） → kawapass
- ユーザ認証ID（着信） → tokyo
- ユーザ認証パスワード（着信） → tokyopass
- Si-R30のIPアドレス → 192.168.2.1（本装置のLAN側のIPアドレス）
- Si-R30のネットマスク → 24
- 相手ルータのIPアドレス → 192.168.1.1（接続先となる本装置のネットワークアドレス）
- 相手ルータのネットマスク → 24（接続先となる本装置のネットマスク）

[オプション設定]

- 接続ネットワーク名 → kaisya（接続するネットワークの名称）
- 接続先名 → tokyo

通信する

WWWブラウザや電子メールソフトなどの通信用アプリケーションを起動しておきます。通信が必要な状態になると、本装置が自動的に回線を接続します。

⚠注意

本装置は、10BASE-Tポートに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤル発信を行い回線を接続します。そのため、お客様がご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用条件により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されてしまう場合があります。本装置の表示メニューで、課金情報を定期的にチェックしてください。



「かんたん設定」で設定した初期設定の状態では、約60秒間データの送受信が行われない場合、自動的に回線を切断します。



ヒント

省略値について

かんたん設定時に適用される主な省略値を示します。

○：変更可能、×：変更不可

項 目	適用される省略値	オプション設定での設定変更
自動ダイヤル	使用する	×
サブアドレス	なし	×
不特定相手着信	許可しない	×
無通信監視タイマ	60 秒	○
課金単位時間	なし	○
接続ネットワーク名	localnet	○
接続先名	OFFICE-1	○
該当接続先への着信許可	許可する	×
DHCP サーバ機能 ・ 割り当て先頭 IP アドレス ・ 割り当てアドレス数	使用する 本装置の IP アドレス、ネットマスクから求めた ネットワークアドレス + 2 32	○
NAT 機能	使用しない	×
MP 機能	使用しない	○
かんたんフィルタ	使用しない	×
ダイナミックルーティング ・ RIP 送信 (LAN 側) ・ RIP 受信 (LAN 側) ・ RIP 送信 (WAN 側) ・ RIP 受信 (WAN 側)	送信しない 受信しない 送信しない 受信しない	×
スタティックルーティング ・ LAN 側 ・ WAN 側	なし 相手ルータの IP アドレス、ネットマスクを元にス タティックルートを設定する	×
ヘッダ圧縮	VJ-Compression：使用する	○
課金制御	上限 3,000 円	×
スケジュール	毎週金曜日 00:00 に課金情報クリア	×

「かんたん設定」で設定する (オフィスへ専用線接続のとき)

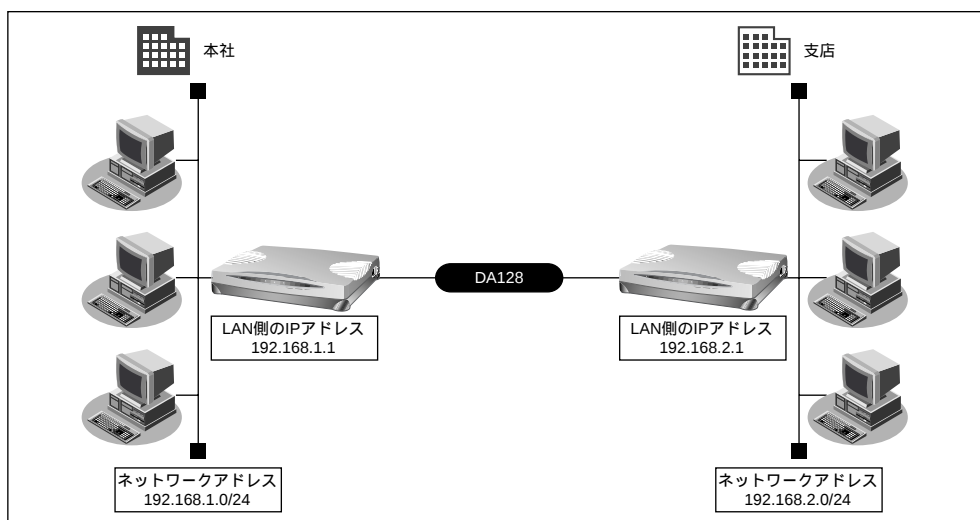
事業所 LAN どうしを専用線で接続するときは、「かんたん設定」で [必須設定] の情報を設定するだけで接続できます。また、[オプション設定] の情報を設定すると、以下のことができます。

- 接続ネットワーク名の設定
- DHCP サーバ機能の設定
- 送受信するデータの圧縮 (VJ-Compression)

ここでは、専用線 (HSD128Kbps) を介して2つの事業所 (本社、支店) のネットワークを接続する場合を例に説明します。



「詳細設定」で設定する場合や基幹ネットワーク (大規模ネットワーク) に接続する場合は、「事業所 LAN を専用線で接続する」(P.111) を参照してください。



● 設定条件

[本社]

- 専用線 (128Kbps) を使用する
- DHCP サーバ機能は使用しない
- アドレス変換は使用しない
- LAN 側のネットワークアドレス/ネットマスク : 192.168.1.0/24
- 本装置の IP アドレス : 192.168.1.1

[支店]

- LAN 側のネットワークアドレス/ネットマスク : 192.168.2.0/24
- 本装置の IP アドレス : 192.168.2.1

こんな事に気をつけて

文字入力フィールドでは半角文字（0～9、A～Z、a～z、および記号）だけを使用してください。ただし、空白文字、「」_全「」_半「<」_全「>」_半「&」_全「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

詳細については、「付録 文字入力フィールドに入力できる文字一覧（P.600）」を参照してください。

本社の本装置を設定する

1. かんたん設定でオフィスへの「専用線接続」をクリックします。

「かんたん設定（オフィスへ専用線接続）」ページが表示されます。

2. [必須設定] で以下の項目を指定します。

- Si-R30のIPアドレス → 192.168.1.1（既存のLAN につなぐときは適宜変更）
- Si-R30のネットマスク → 24（既存のLAN につなぐときは適宜変更）
- 相手ルータのIPアドレス → 192.168.2.1（接続先となる本装置のIPアドレス）
- 相手ルータのネットマスク → 24（接続先となる本装置のネットマスク）
- 使用する回線速度 → 128Kbps

3. [オプション設定] で以下の項目を指定します。

- 接続ネットワーク名 → kaisya（接続するネットワークの名称を半角英数字8文字以内で入力します。接続先を区別するため任意の名称を指定します。）
- DHCP サーバ機能 → 使用しない

4. 設定が終了したら、[設定終了] ボタンをクリックします。

再起動後に、通信できる状態になります。

こんな事に気をつけて

- 本装置のIPアドレスを変更した場合、再起動後に本装置にアクセスするためには、パソコンのIPアドレスの変更（再起動）およびURLを変更する必要があります。
- 本装置を既存のLANに接続する場合には、LAN上の他のホストとIPアドレスが重複しないように適切なIPアドレスを設定してください。本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

支店の本装置を設定する

「本社の本装置を設定する」を参考に、支店の本装置を設定します。その際、特に指定のないものは、本社と同じ設定にします。



設定が終わったら、[設定終了] ボタンをクリックします。

[必須設定]

- Si-R30のIPアドレス → 192.168.2.1（本装置のLAN側のIPアドレス）
- Si-R30のネットマスク → 24
- 相手ルータのIPアドレス → 192.168.1.1（接続先となる本装置のIPアドレス）
- 相手ルータのネットマスク → 24（接続先となる本装置のネットマスク）
- 使用する回線速度 → 128Kbps

[オプション設定]

- 接続ネットワーク名 → kaisya（接続するネットワークの名称）
- DHCP サーバ機能 → 使用しない



ヒント

省略値について

かんたん設定時に適用される主な省略値を示します。

○：変更可能、×：変更不可

項 目	適用される省略値	オプション設定での設定変更
接続ネットワーク名	localnet	○
DHCP サーバ機能 ・ 割り当て先頭アドレス ・ 割り当てアドレス数	使用する 本装置の IP アドレス、ネットマスクから求めた ネットワークアドレス + 2 32	○
NAT 機能	使用しない	×
かんたんフィルタ	使用しない	×
ダイナミックルーティング ・ RIP 送信 (LAN 側) ・ RIP 受信 (LAN 側) ・ RIP 送信 (WAN 側) ・ RIP 受信 (WAN 側)	送信しない 受信しない 送信しない 受信しない	×
スタティックルーティング ・ LAN 側 ・ WAN 側	なし 相手ルータの IP アドレス、ネットマスクを元にスタティックルートを設定する	×
ヘッダ圧縮	VJ-Compression：使用する	○

「かんたん設定」で設定する（アナログ設定）

「かんたん設定」の「アナログ設定」では、本装置のアナログポートに接続する接続機器の設定、およびナンバー・ディスプレイの使用の有無を設定できます。

ここでは、以下の条件を設定する場合を例に説明します。

- アナログポート1には、電話を接続する
- アナログポート1に接続した電話ではナンバー・ディスプレイを使用する
- アナログポート2には、なにも接続しない



電話以外のアナログ機器を接続する場合は、詳細設定で設定してください。

1. かんたんメニューで「アナログ設定」をクリックします。

「かんたん設定（アナログポート）」ページが表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- アナログポート1

接続機器	→ 電話
ナンバー・ディスプレイ	→ 使用する
- アナログポート2

接続機器	→ なし
------	------

アナログポート1	接続機器	☒ 電話 ☐ なし
	ナンバー・ディスプレイ	☒ 使用する ☐ 使用しない
アナログポート2	接続機器	☐ 電話 ☒ なし
	ナンバー・ディスプレイ	☐ 使用する ☒ 使用しない

3. [設定終了] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

こんな事に気をつけて

- 「INS ナンバー・ディスプレイ」はNTT が提供するサービスです。利用の際はNTT との契約が必要です。
- アナログポートに接続したアナログ機器に発信者番号を表示させるには、本装置のアナログポートにナンバー・ディスプレイ対応のアナログ機器を接続し、アナログ機器のナンバー・ディスプレイ機能を「使用する」に設定する必要があります。
- アナログポート2に機器を接続しない場合は、必ず「接続機器」に「なし」を指定してください。ご購入時の状態では、アナログポート1、2共に「接続機器」は「電話」となっています。この場合、アナログポート1に接続された電話で通話中に電話がかかってくると、相手の方は呼びだし中のまとなります。
- ナンバー・ディスプレイ対応アナログ機器の機種によっては、発信者番号が正常に表示されない場合があります。
- 詳細設定後にかんたん設定（アナログ設定）を行うと、詳細設定のアナログポート1/2情報で指定した「接続機器」と「通信前情報通知」の設定は無効となります。

電話機を使って設定する

本装置のアナログポート（ポート1、ポート2）に接続したアナログ機器から設定できる項目を以下に示します。

- 時計の設定
- IP アドレスの設定
- アナログ機能の設定
 - スタンバイモードの設定
 - 着信転送の設定
 - アナログポートの接続機器の設定
 - ナンバー・ディスプレイの設定
 - i・ナンバーの設定
 - 鳴り分け番号の動作モードの設定
- 着信転送先の設定
- TEL メールの設定
- メールチェックの実行
- メール着信の消去
- 留守状態の設定
- 留守モードの設定

こんな事に気をつけて

データ通信中に電話機を利用して設定を変更するとデータ通信が切断されます。
ただし、「時計の設定」、「メールチェックの実行」、「メール着信の消去」の場合は切断されません。

■ 時計を設定する

電話機を使って本装置の内部時計を設定する方法を説明します。時計の設定方法は、他にも WWW ブラウザで設定する方法があります。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. **[*][0][*][8][2][0]** + **[*]** 日付 + 時刻 (yymmddHHMMSS) をダイヤルします。
 - yy → 西暦の下2桁を指定します。00 ~ 36 の場合は西暦2000年以降とみなします。
 - mm → 月を01 ~ 12までの数字で指定します。
 - dd → 日付を01 ~ 31までの数字で指定します。
 - HH → 時間を00 ~ 23までの数字で指定します。
 - MM → 分を00 ~ 59までの数字で指定します。
 - SS → 秒を00 ~ 59までの数字で指定します。

例) 時刻を2001年1月1日午後2時30分00秒に設定する場合

※0※820※010101143000をダイヤルします。

3. ピピットという音が2回とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

■ IPアドレスを設定する

本装置のアナログポート（ポート1、ポート2）に接続したアナログ機器からIPアドレスの設定を行います。

こんな事に気をつけて

- 本装置のIPアドレスの変更を行うとLAN間通信やISDNでのデータ通信ができなくなる場合があります。
- DHCPサーバ機能を利用する場合には、WWWブラウザから設定を変更してください。
- DHCPサーバ機能を利用している場合は、本装置のIPアドレスの変更は行わないようにしてください。IPアドレスを変更すると、DHCPサーバ機能は利用できません。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. ※0※810 + ※IPアドレス※ネットマスク※ブロードキャストアドレスをダイヤルします。

IPアドレス、ネットマスク、ブロードキャストアドレスの数字の区切りに※を使います。

ブロードキャストアドレスは、指定するブロードキャストアドレスに対応する数値を以下の表から選択します。

選択値	ブロードキャストアドレスの設定
0	0.0.0.0
1	255.255.255.255
2	IPアドレス/ネットマスクから求められる ネットワークアドレス+オール0
3	IPアドレス/ネットマスクから求められる ネットワークアドレス+オール1

例) IPアドレスを「192.168.2.1」、ネットマスクを「24」、ブロードキャストアドレスを「3（ネットワークアドレス+オール1）」に設定する場合

※0※810※192※168※2※1※24※3をダイヤルします。

3. ピピッという音が2回とビジートーン（ブーブーブーという話中の音）が聞こえます。



正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（ブーブーブーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。



ブロードキャストアドレス

ブロードキャストとは、LANに接続するすべての端末に同報発信することで、無駄なトラフィックを軽減させるために使用します。例えば、ネットワーク全体に同じデータを同時に送信する場合、送り先の端末分のパケットを送信する必要があります。しかし、ブロードキャストアドレスを指定するとパケットを1個送信するだけでネットワーク全体に送信することが可能です。ブロードキャストには、あて先アドレスとして特定のアドレスを使います。接続するネットワークの、ブロードキャストとして運用しているアドレスによって、ブロードキャストの設定を切り替える必要があります。

■ アナログ機能を設定する

アナログポートに接続したアナログ機器から、以下のアナログ機能の設定を行えます。

- スタンバイモードの設定（通常モード / スタンバイモード）
- 着信転送の設定（しない / する / 疑似着信転送）
- 接続機器の設定（なし / 電話 / モデム / FAX / FAX（無鳴動強制着信 / 無鳴動識別着信 / キャッチホン着信））
- ナンバー・ディスプレイの設定（使用しない / 使用する（モード1） / 使用する（モード2））
- i・ナンバーの設定（使用する / 使用しない）
- 鳴り分け番号の動作モードの設定（ポート1のみ着信 / ポート2のみ着信 / 両ポート着信 / 着信拒否）

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。



※□※に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
スタンバイモード	通常モード	8001
	スタンバイモード	8002
着信転送	しない	6001
	する	6002
	疑似着信転送	6003
接続機器の設定	なし	40P1
	電話	40P2
	モデム	40P3
	FAX	40P4
	FAX（無鳴動強制着信）	40P5
	FAX（無鳴動識別着信）	40P6
	FAX（キャッチホン着信）	40P7
ナンバー・ディスプレイ	使用しない	41P1
	使用する（モード1）	41P2
	使用する（モード2）	41P3
i・ナンバーの設定	使用しない	2201
	使用する	2202
鳴り分け番号の動作モード	ポート1のみ着信	22i1
	ポート2のみ着信	22i2
	両ポート着信	22i3
	着信拒否	22i4

Pには、設定を変更するアナログポートのポート番号（1または2）を入れます。

iには、鳴り分け番号1～3の番号（1、2または3）を入れます。

例）ポート2の接続機器を「なし」にする場合

***0*4021** をダイヤルします。

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。

例）「接続機器」の設定を「なし」に設定した場合、ピピッ（1回）プープープー
正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

■ 着信転送先の設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、着信転送および疑似着信転送の転送先の設定を行います。

■ 参照 「着信転送の設定を行う」(P.266)、「疑似着信転送を使う」(P.260)

1. 受話器を上げ、ツーンという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。



に続けて操作番号 + 転送先電話番号をダイヤルします。

機能	操作番号
契約者回線番号の転送先	610
ポート1のダイヤルインの転送先	611
ポート2のダイヤルインの転送先	612
鳴り分け番号1の転送先	613
鳴り分け番号2の転送先	614
鳴り分け番号3の転送先	615

例) 契約者回線番号を「03-1111-2222」に着信転送する設定を行う場合

***0*6100311112222**をダイヤルします。

3. ピピッという音とビジートーン（ブーブーブーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります。

- ・契約者回線番号の転送先を設定した場合 : 1回
- ・ポート1のダイヤルイン番号の転送先を設定した場合 : 2回
- ・ポート2のダイヤルイン番号の転送先を設定した場合 : 3回
- ・鳴り分け番号1の転送先を設定した場合 : 4回
- ・鳴り分け番号2の転送先を設定した場合 : 5回
- ・鳴り分け番号3の転送先を設定した場合 : 6回

正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（ブーブーブーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

■ TELメールの設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、TELメールの設定を行います。

☛ 参照 「TELメール機能」(P.411)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

✳0✳に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
TELメール機能の設定	使用しない	2101
	使用する	2102

3. ピピッという音とビジーートン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。

正常に設定できなかった場合は、ビジーートン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

■ メールチェックを実行する

アナログポートに接続したアナログ機器から、メールチェックを実行できます。

☛ 参照 「メールチェック機能」(P.400)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. **✳0✳8300**をダイヤルします。
3. ピピッという音が2回とビジーートン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



正常に設定できなかった場合は、ビジーートン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

■ メール着信を消去する

アナログポートに接続したアナログ機器から、メール着信を消去できます。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. **✳0✳8500**をダイヤルします。
3. ピピッという音が2回とビジートン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



正常に設定できなかった場合は、ビジートン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

■ 留守状態の設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、留守確認機能の留守状態の設定を行えます。

☛ 参照 「留守状態を確認する（無課金）」(P.313)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

✳0✳に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
留守状態の設定	在宅	2001
	留守	2002

3. ピピッという音とビジートン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。

正常に設定できなかった場合は、ビジートン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

■ 留守モードの設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、留守モードの設定を行えます。

☛ 参照 「留守モードの動作を設定する」(P.418)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

✳️□✳️に続けて操作番号をダイヤルします。

機能		操作番号
留守モードの設定	解除	8401
	実行	8402

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。

正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

